

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における
大里南 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

大里南 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
算数A	全国平均正答率を下回っている。
算数B	全国平均正答率を下回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、全国平均正答率をやや下回ったものの、昨年度より上昇し、話すこと・聞くこと(話し合いの観点に基づいて情報を関係付ける)は基礎ができていた。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことや書くことについては課題があり、漢字の習得を高める家庭学習の工夫が必要である。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する(仮定の表現として、適切なものを捉える)問題は正答率が高かった。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題については、無解答率が高かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、全国平均正答率をやや下回ったものの、昨年度より上昇していた。 ・自分の意見を書くことや国語への関心・意欲・態度を高めることに課題がある。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・【詩1】の表現の特徴として適切なものを選択する(2つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える)問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋に書かれた内容に関係付けながら、最初にもった疑問を捉えて書く問題や二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く問題については、無解答率が高かった。

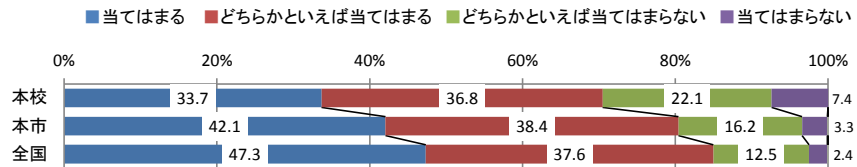
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、全国平均正答率をやや下回った。特に数量や図形についての技能や数量や図形についての知識・理解を高めることに課題がある。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさ調べる場面と図とを関連付けることができる問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・単位量当たりの大きさの求め方を理解している問題や円周の長さを、直径の長さを用いて求める問題は、無解答率が高かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、全国平均正答率をやや下回ったが、数量や図形についての技能については、昨年度より全国平均正答率を上回った。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をすることができる問題は、正答率がかなり高かった。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述する問題や示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述する問題については、無解答率が高かった。

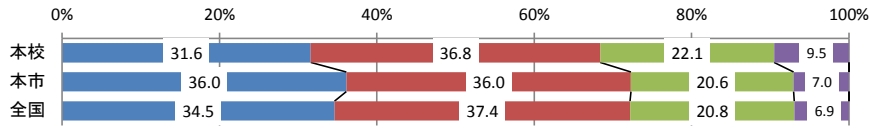
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

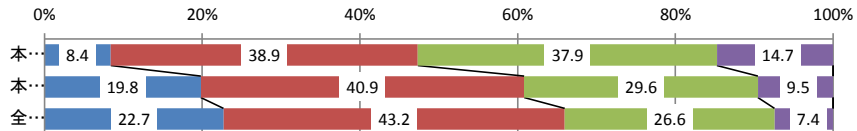
43
授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



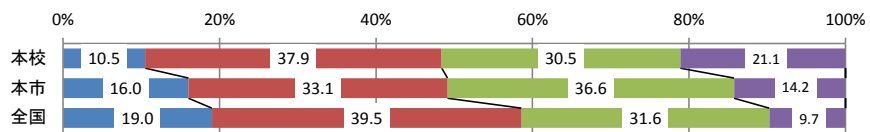
45
授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う



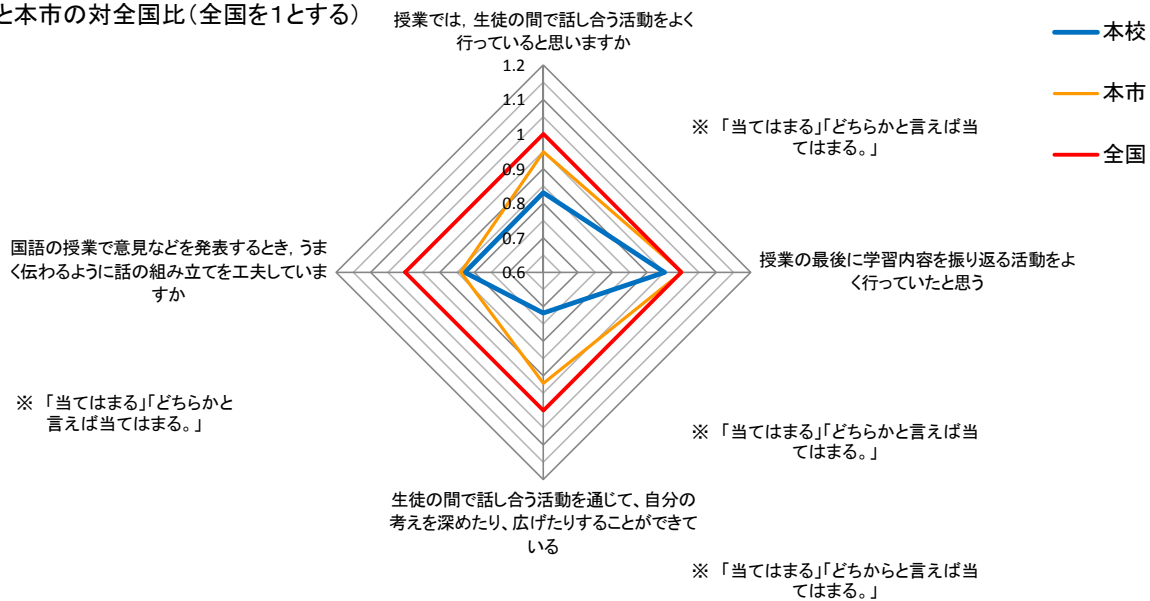
48
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



56
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・グラフはいびつで小さい。つまり、すべての項目で全国平均を下まわっている。「自分の考えを深めたり広げたりすることができる」は、特に抵抗がある。

・授業では、「自分の考えを発表する機会が与えられている」と答えている児童は、全国と比較してそのもその差が広がっているまた、話し合う活動を通して、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えている児童も全国と比較してその差が広がっている。主題研究(算数科の実践を通して)や各教科の学習の時間に発表する機会や話し合い活動の時間を十分確保すると共に、話し合いの仕方の指導に力を入れて、思考が深まる授業を行っていく。

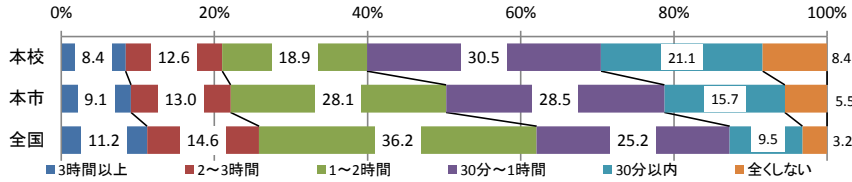
・うまく伝わるような話の組み立て方の工夫については、各学年に応じた発表の仕方を教室に掲示する。朝の会や帰りの会のスピーチタイムで活用したり、授業の中での発表やまとめの発表の場で活用したりして、発表することへの抵抗を少なくする。

・授業の振り返りについては、昨年度に引き続き主題研究(算数科の実践を通して)のノート指導を中心に、全学年で統一連携して意図的継続的に取り組んでいく。

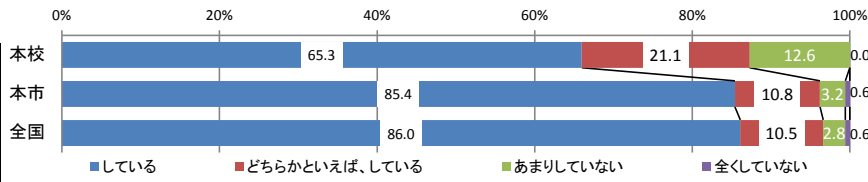
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

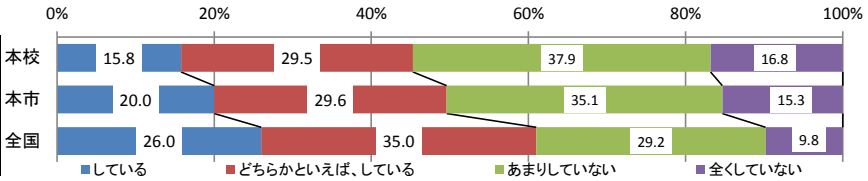
14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



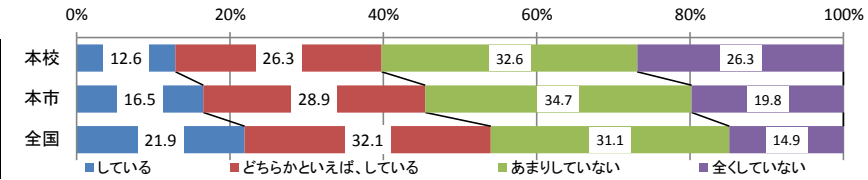
22
家で、学校の宿題をしていますか



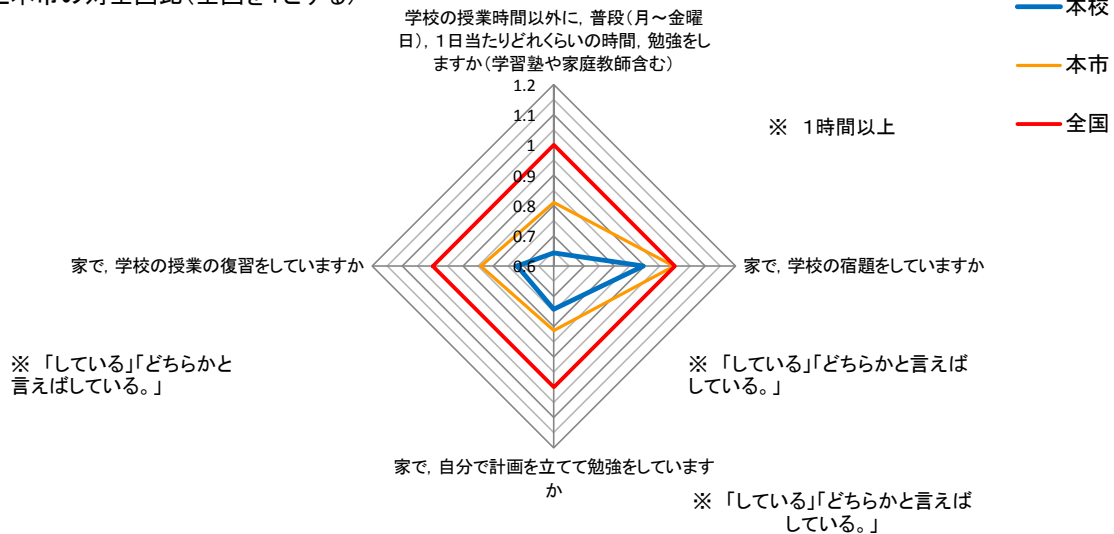
21
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



24
家で、学校の授業の復習をしていますか



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

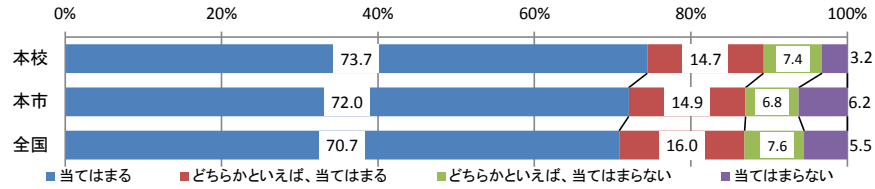


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

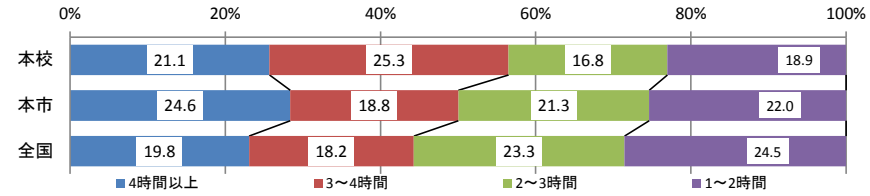
・グラフは、大変小さく、いびつである。具体的には、
 ・1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、年々増加の傾向にあるが、全国と比較してもその差がある。家庭学習の時間が、30分以内21.1%、まったくしない8.4%と課題が大きい。家庭学習の絶対量が少なく、全校で時間のめやすを示したり、各学年に応じて家庭学習の具体的な取り組み方の指導を続けているところである。
 ・自分で計画して勉強をしている児童の割合も全国より10ポイント以上差がある状況が続いており課題である。各学年に応じて、計画的に宿題や自主学習ができるように、保護者と連携を密にして取組を推進している。

④ 生活習慣等に関する調査結果

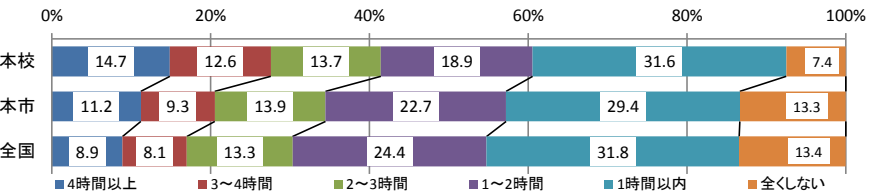
10
将来の夢や目標を持っていますか



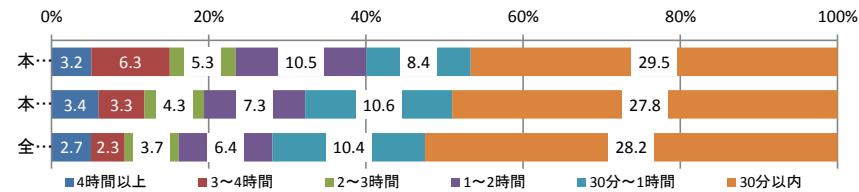
11
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



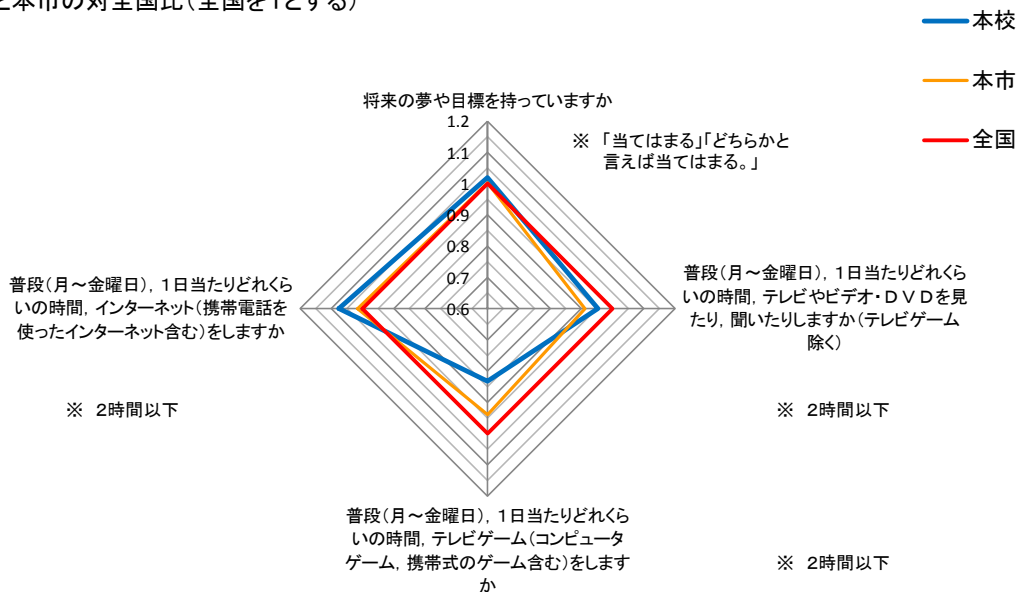
12
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか



13
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネット(携帯電話を使ったインターネット含む)をしますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・将来の夢をもっている児童は、全国と同じくらいいる。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせる必要がある。
・テレビやテレビゲーム、インターネットなどの接触時間が全国平均を大きく上回っており、課題である。特に、テレビ等の接触時間が3時間以上が46.4%、テレビゲーム等の時間が3時間以上27.3%、インターネットの時間が2時間以上25.3%と昨年度と大きく変わっていない。改善を図る具体的な方策を家庭と連携して共有することが必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝自習で、<大南タイム1>(8:40~50一週5回、曜日によって課題を設定)と<大南タイム2>(8:50~55一週5回、宿題の○付け)を全校一斉に実施
 - ・<子どもひまわり学習塾>毎週火曜日と木曜日の16:15~17:00に4年・5年希望者で実施
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・アシストシートや過去問題、宿題プリントを宿題に出し、基礎基本の徹底を図る。
 - ・アシストシートや過去問題を冊子にして、夏休み・冬休み・春休みの「宿題帳」とする。
- ◎ 「書く」ことの習慣化
 - ・主題研究(算数科の実践)によるノート指導を評価に生かす。
 - ・学習の最後に、振り返りを書くようにする。
 - ・各教科の学習の足あとをノートに残す。
- ◎ 音読発表
 - ・全校朝礼等集まる機会を活用して、学年音読、全校音読をする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・家庭学習時間や内容の設定
 - ・「家庭学習の手引き」の作成・実施
 - ・毎日プリントを1枚(復習)+漢字ドリルや計算ドリル等のスキル学習、読書や音読、リコーダーの練習等
 - ・自主学習ノートの活用
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
 - ・家庭学習マイスター賞への応募
 - ・夏休み・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者に通知
 - ・学年・学級懇談会や家庭教育学級等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を図る。